

「あおちゃんを救う会」 活動報告

杉原 陽



私が昨年来携わっている公認会計士としてのボランティア活動をご紹介します。

2022年6月、友人から生後7か月の娘が心臓病を患っているため、米国での心臓移植を目指したい、そのためには募金活動を行う救う会を設立する必要がある、会計担当として力を貸して欲しいとの相談を受けました。病院からは助かる道は心臓移植しかないという説明があったが、日本での臓器提供の数は諸外国と比べて著しく少なく、国内では心臓移植を受けられる可能性は僅かであること、生後間もない頃から手術を繰り返していること、寄付を募ることへの葛藤があり悩み抜いたことなどを聞き、力になろうと思い引き受けました。

救う会は、両親の大学時代の先輩や友人の方々が集まり2022年8月に「あおちゃんを救う会」として設立しました。0歳にして心臓疾患のある友人の子を助けたいという想いは皆一緒でしたが、経験が無い部分については、臓器移植を支援するNPO法人日本移植支援協会より指導を頂きながら、手探りで準備を進めました。

救う会の目標募金金額は、円安傾向と米国の医療費高騰等の影響もあり、5億3千万円として設定されました。当初は途方もない金額に思えましたが、多くのメディアに取り上げて頂いたこともあり、なんと募金活動開始後わずか3週間程度で目標募金金額を達成することができました。2023年3月には家族での渡米を果たし、同8月には臓器提供者が現れ、無事に心臓移植手術を受けることができました。募金活動開始直後は救う会事務局に寄付の申し出や応援の電話が鳴りっぱなし、テレビを見たという小学生を含む多くの方々から激励の手紙を受け取ったり、募金活動を行っていた救う会の事務所近辺でも温かいお言葉をかけて頂いたり日本人の温かさが身に沁みました。また、救う会には多くの協力者の方々々が次々と現れ、HPや動画を無償で制作して頂いたり、街頭での

募金活動に協力して頂いたり、メディア対応のアドバイスや主導もして頂きました。バックグラウンドが異なる方々が本気で協力し合うとこれ程までに大きな成果を出すことができるのかとも感じました。これも偏に両親の人徳あってのものなのだろうと思います。

会計担当としての役割は、銀行口座の開設、目標募金金額の設定、募金の管理、病院やメディカルジェットの手配事務、医療費や渡航費用を含めた支払事務、会計報告といった内容になります。救う会が法人格の無い任意団体であり銀行での手続きが難航したことや、通常業務との時間のやりくりがやってみると大変でした。あおちゃんと両親のための活動としてスタートしましたが、募金が集まってくると、寄付をしてくださった方々の想いに応えるため、お預かりした資金を透明性ある健全なカタチで運営する責任も強く感じました。

共通の友人もSNSでの拡散等々で力強くサポートして頂きました。自分も人の親だからと100万円寄付すると言ってくれた友人がいたり、大学病院勤務の医師の方は米国の心臓外科医の方々から貴重な現地情報を得てくれたりと、普段はゴルフや食事をしたりと楽しい時間を過ごしていた仲間の大切さも痛感する形となりました。

あおちゃんと家族は2024年の春までには帰国する予定です。救う会は、手術後3年経過し、追加の医療費が発生しないことが見込まれた時点で、余剰財産をその時点で同種の活動をしている団体に引き継いで清算する予定です。多くの方々からお預かりした募金を寄付して下さった方々の想いにお応えできるよう、会計監査への対応や会計報告等引き続き透明性ある資金の管理をしていきます。

